

3171 北の大地一人旅：襟裳岬

海を見るとき、心理状態で感じるものがいろいろ違う。寂しいと見るのか、素敵だと感じるのかいろいろ。

襟裳岬への道中、道草を繰り返しながら海辺にも近づいて海水に触れる。

口元で味見すると、塩分が半端でない。ふと、今夜は海の幸が食べたい。いろいろ教えてもらおう。



風を見る
風を聴く
風と遊ぶ



森進一が歌う「襟裳岬」作曲は吉田拓郎、作詞、岡本おさみ。1番、2番、3番、
歌詞の最後は「襟裳の春は 何もない春です」と。1番の歌詞に、理由のわからないことで悩んでいるうち
老いぼれてしまうから 黙りとおした歳月を ひろい集めて 暖めあおう、と。

3番に、日々の暮らしはいやでもやってくるけど 静かに笑ってしまおう。最後に、襟裳の春は何もない春です。

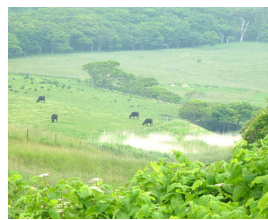
期待せず、何もない襟裳岬。季節を変えて2度訪ねることができた。人情が懐かしい。

カウンターで静かに。海の幸がうまい上にご夫妻と会話を重ねながらのひとときは、旅が最高と思う時。

2月の選択肢、「写真で巡る北の大地一人旅」そして、「トラベルライターへのチャレンジ」

そろそろ振り返って画像始め、本格的に整理しないとゴミとして消え去って行く危険がある。記録として残したい。

今、YouTubeの「襟裳岬」を聴きながら、また、画像を整理しながら…



この後、心模様 3172 にて「風を見る。風を聞く。風と遊ぶ」

季節は6月末といえども、風の強さは尋常ではなかった。身体も振られる。眼下も見てみたい。

眼前の小さな群鳥が見え隠れする。シャッターチャンス。難しい。自然との勝負。

勝てるわけではないが、記録として残したい。

無我夢中は至福の時間。風も寒さもなんてことはない。それにしても岬の風は強烈だった。